

新潟産のジェットエンジンで中心。新潟県内の中小企業を中心にしたり、白木社長は「YS-ECのエンジンの開発が佳境を迎えている。写真撮影や荷物の運搬に使える小型の無人航空機(UAV)に搭載し、2013年に県内で試験飛行することを目指す。将来はジェットエンジンの製造など航空機関連産業の集積を狙う。

水田が広がる新潟市西蒲区。「キーン」というジェットエンジンのタービン音が連日響いている。航空機部品などを手掛けるYS-EC横浜市、白木和範社長の主力工場だ。YS-ECや板金加工の小林製作所(新潟市)、小林直樹社長、産業技術総合研究所などが開発中の小型ジェットエンジンが9月の完成に向けて、試

験を重ねている。完成まであと少し。音はかかなり静かで、性能は海外製より優れる」とYS-ECの白木社長は力を込める。エンジンの心臓部は直径13センチ、筒状で長さは30センチ、重さは8キロ。チタンやマグネシウムなどの金属でできたすべての部品を中小企業が加工した。

小型ジェットエンジン開発を巡る動き

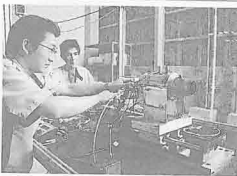
2008年	英国のファンボロー航空ショーに新潟市職員を派遣
09年	フランスのパリ航空ショーに新潟市が出展(企業3社が参加)
10年	ファンボロー航空ショーに新潟市が出展(10の企業・団体が参加)
11年1月	経済産業省の事業に採択、小型ジェットエンジン開発を始める
6月	パリ航空ショーにエンジン部品を展示(11の企業・団体が参加)

新潟エンジン 離陸目前

無人ジェット搭載へ

完成すればタービンが1分間に最高10万回転する。重さ100キロの機体にエンジンを2機搭載した場合、100キロの荷物を載せて最高時速100キロ、1時間の飛行ができるという。海外製のエンジンに比べ、燃費は2割以上向上する見通し。経済産業省から約1億円の補助金を得て開発。企業は技術力は素晴らしい。今回のエンジン開発で各社の技術を結果できたと評価する。

岩田拓也博士は「今後、実際の機体に搭載して13年に県内での飛行試験に挑む」と話している。



開発中の小型ジェットエンジンの心臓部(新潟市のYS-EC横浜工場)

航空機産業は市場規模が大きく、高い成長が見込めるため、国内各地で参入を目指す動きがある。経済産業省によると、世界の航空機産業の市場規模は約30兆円(2010年度)。新興国の経済成長に伴い、民間航空機は今後20年間で約300兆円の新規需要が見込まれるという。

日本の航空機産業の生産

@news.
越後

成長見込み参入相次ぐ

燕三条は再生事業

高は現在、年1兆円強と10兆円を超える米田を下回った。国内勢に小型ジェットエンジン製造のライバルはあらず、新潟市は関心が課題となる。

「今年から始めた。同研究会に参加するATRやトエジの吉田宗女社長は「いきなり部品の受注は難しい。まずは関連産業にかかわって」と話す。

「信頼と実績が求められる航空機産業への参入には息長い取り組みが必要だ。」(福岡幸太郎)

写真撮影や荷物運搬向け 13年 試験飛行狙う

行試験につなげる考え。その結果、「環境狙うは需要拡大が見込め、整備や荷物運搬、災害対応としての事業化」が必要と判断された(新潟市企業立地・ポータル課の宮崎博人係長)。

無人機はこれまで偵察機などの軍事的利用が多かったが、今後は航空写真撮影や物資輸送、加工したエンジン部品は、地質調査用など民生市場の拡大が期待できるという。国内勢に小型ジェットエンジン製造のライバルはあらず、新潟市は関心が課題となる。

「今後、実際の飛行を成功させ、商用エンジン開発で実績のない企業の製品をどう売り込んでいくかが課題となる。」